

I章. 松戸市の現状と課題

1. 松戸市の特性

縄文時代、松戸の低地部の多くは古東京湾と呼ばれる海でした。このことは、市内に沢山の貝塚が形成されていることから証明できます。縄文時代の人は台地の上から眼下に東京湾を眺めていたのです。後にこの地方は大和朝廷に支配され下総国となり、当時は、「馬津里」「松里」といわれていました。

松戸の地名が文字となって書かれたのは、寛仁4年（1020年）上総介であった菅原孝標（たかすえ）とその娘が京都に帰る途中、松戸を通ったと『更級日記』に書かれたのが始まりと言われています。

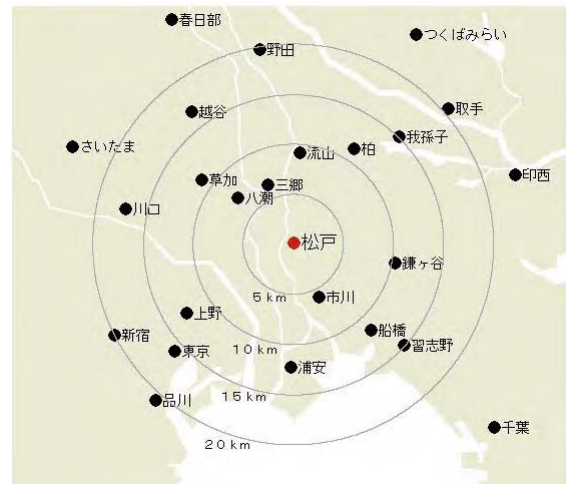
…しもつさの国と、武蔵との境にてあるふとる川と云ふかかみの瀬、まつさとのわたりの津にとまりて、夜ひと夜、ふねにてかつかつものなどわたす…
(松戸) (更級日記)

長い年月を経て育まれてきた松戸の特性は、市民の生活様式や価値観の変化、多様化の中でもなお残され、また、姿を変え、現在の特性を形成しています。ここでは、本市の特性を自然、歴史、産業別に概観してみることになります。

(1) 松戸市の位置

本市は、千葉県東葛飾地域の一翼をなしていますが、東京都心部へ約15kmと近接しており、東京の影響を強く受けているといえます。

西は江戸川を境に東京都葛飾区、埼玉県三郷市と接し、南は市川市、東から北にかけて鎌ヶ谷市、柏市、流山市に接しています。



(2) 自然特性

1) 河川

市内には、江戸川と中小河川・水路などの水辺の景観要素が多くあります。特に江戸川は、利根川の下流域にあたり、緩やかに蛇行する雄大な流れと広大な水とみどりの空間がその表情の特徴となっています。

また、市内の中小の河川は、下総台地西端部の湧水などを源として、江戸川沿いを中心に流れています。多くがその役割や地理的条件から掘込み形式で、護岸や水際が単調になっています。しかし、近年、水質改善が進み、水量確保ができたところでは、市街地の貴重な水辺、緑地帯としての役割を發揮しつつあります。



悠々と流れる江戸川

2) 地形

本市は関東ローム層に代表される洪積層の台地と、江戸川沿いの沖積層の低地からなっています。

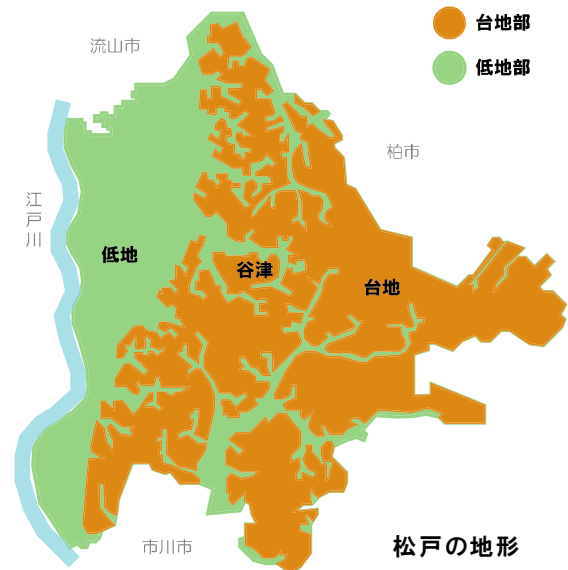
台地部は標高 25m～30m 程度で、6m～10m 程度の火山灰層が堆積しており、その下部層は洪積世の下総層群が厚く堆積しており約 400m にも達します。

また、谷津と称する低湿地が樹状に数多く刻まれており、この谷津は地下水の湧水や海の海進海退によって侵食され急斜面や崖を形成しており、谷底と台地面の高低差は 18m～20m にもなっています。

全市域が台地～斜面地～低地の連続によって構成されています。伸びやかな台地が続く地形であり、坂道や階段が多い特徴があります。



谷津地形の 21 世紀の森と広場



松戸の地形

3) 植生等

本市は自然植生の区分として常緑樹林帯（ヤブツバキクラス域）に位置しています。

台地部では常緑広葉樹林としてシラカシなどのカシ類、低地部や斜面林などではケヤキ、エノキ、ムクノキ、ミズキ等が優占する落葉広葉樹林が住宅地に隣接して点在しています。面積は少なくなりましたが、市内河川や湿地ではヤナギやハンノキといった河辺林もあります。これらの自然植生の樹木と、人の手による植生としてのコナラを中心とした落葉広葉樹とスダジイ、タブノキなど常緑広葉樹が混在しています。また、人工林はスギ林が多く、松戸の地名にあるようなアカマツ林も以前は多くありましたが、今はあまり存在しません。

また、昭和 30 年代以降の都市化の進捗によって植栽されたサクラやケヤキの街路樹も、今日では本市の貴重な緑として市民に親しまれています。

本市では「市の木・花・鳥」を制定しており、市の木は「しい」「ユーカリ」「さくら」「なし」です。市の花は「つつじ」「あじさい」「のぎく」です。市の鳥は「ふくろう」「つばめ」「しらさぎ」となっています。



松の表紙の「伸び行く松戸」

(3) 歴史特性

奈良・平安時代の本市は、武蔵国、常陸国、下総国の各国府に通じる交通の要衝になっていました。鎌倉時代には、日蓮により名づけられた本土寺や、万満寺の前身となる大日寺が建立されました。室町時代には高城氏が根木内城や小金城を築城して当地の中心として勢力を伸ばし、同時期に東漸寺など様々な寺が建立されています。

江戸時代の本市域は水戸街道*の宿場町として松戸宿、小金宿が置かれ栄えていました。特に松戸宿には江戸川水運の河岸が設けられ、大変賑わっていました。また、幕府直轄の馬牧であった小金牧では4回にわたって将軍のお鹿狩りが行われました。

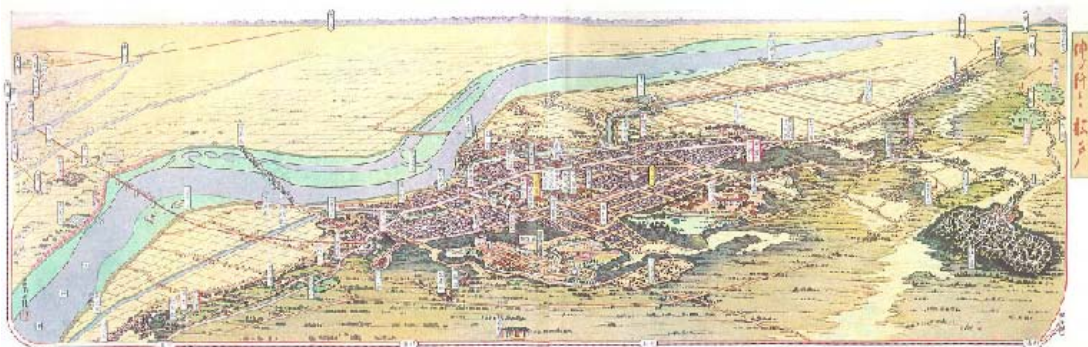
明治維新後も、本市は東京都心部から約15kmと近いため、古くからその影響を強く受けており、昭和前期までは近郊野菜生産地として推移しつつも、工兵学校や演習場など軍関連の施設が立地しました。その後、軍関連施設は大学や工業団地などに姿を変え、今に至っています。武蔵野線の開通や国道6号の整備などは、台地部における住宅開発の動きや工業団地の建設を促進し、昭和30年代以降のベッドタウンとして急成長の基盤が形成されていきました。



小金牧の鹿狩で将軍休憩所となった松龍寺



工兵学校



松戸駅周辺の鳥瞰図「伸び行く松戸」昭和11年 松戸町役場発行

※現在、一般的に水戸街道と呼ばれる道は、近世では水戸道中と称されていました。本計画では、水戸街道を使用しています。

(4) 産業特性

1) 農業

本市は、かつて近郊農業地帯として隆盛を誇っていましたが、市街化が進む中で次第に農地が減少しています。そのような中でも長い伝統と技術蓄積に支えられたねぎは、「矢切ねぎ」として有名で、高い生産性を誇っています。また、全国的に有名な「二十世紀梨」発祥の地でもあります。



矢切のねぎ畑

2) 工業

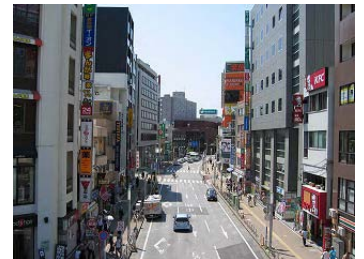
本市は近代都市に必要な産業構成をつくるため、昭和35年（1960年）から昭和45年（1970年）まで内陸工業団地を造成し、「煙を出さない公害のない工業」を条件に企業誘致をしています。現在、市内には1,100余の企業が操業し、そのうち北松戸、稔台、松飛台の3工業団地で200余の企業が操業しています。



松飛台工業団地

3) 商業

本市は、東葛飾地域の一翼を担う経済活動拠点として、松戸、新松戸、八柱の各駅周辺に商業核を形成しており、市全体としても千葉県内でも有数の商業集積を持っています。しかし、商業の立地としては東京に近く、周辺にも柏市などがあり、競争が激しいといえます。



松戸駅西口

4) 観光

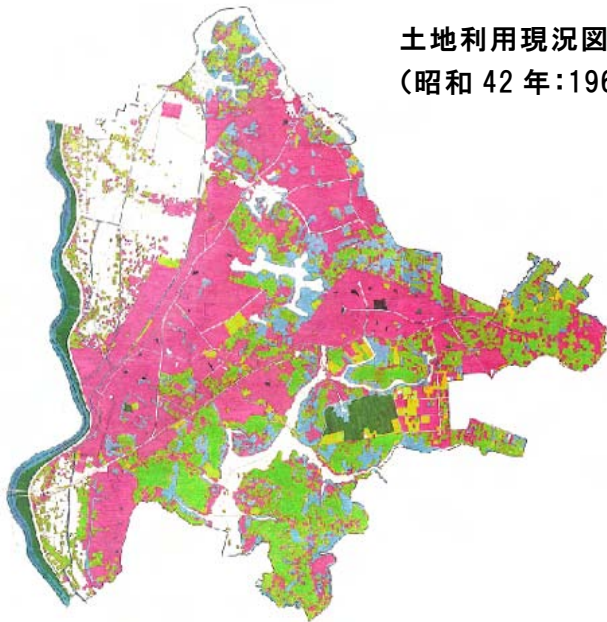
アジサイで有名な本土寺、矢切地域では、近代化産業遺産に認定された柳原水閘や伊藤左千夫の小説「野菊の墓」の舞台として知られている矢切の渡しなどがあります。また、明治17年（1884年）に水戸藩最後の藩主であった徳川昭武（あきたけ）の別邸として建造された戸定邸が、明治前期の華族住宅の指標となるものとして歴史的価値が高いという理由で、平成18年（2006年）に国指定の重要文化財となりました。



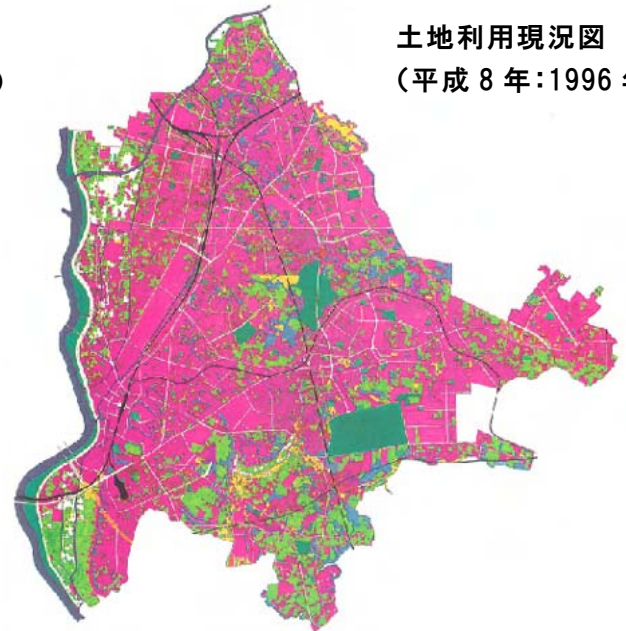
戸定邸

(5) 市街地の進展

本市の市街化、宅地化の進展は、ひいては緑地、農地の減少と並行して進展してきました。本市の市街化の変遷を比べてみるとその様子がよくわかります。



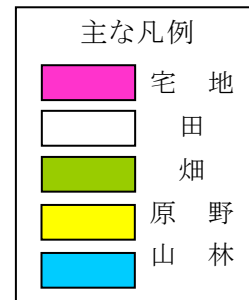
土地利用現況図
(昭和42年:1967年)



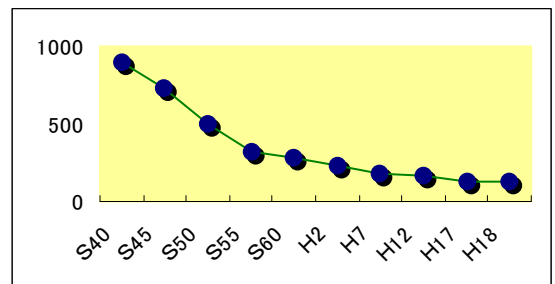
土地利用現況図
(平成8年:1996年)



土地利用現況図
(平成19年:2007年)



民有林の推移 (単位 ha)



2. 松戸市の景観要素

本市の特性、市街地の進展を見ると、そのなかの多くの事象が本市の景観を構成する重要な要素として捉えることができます。

ここでは、本市の景観要素について、以下の4つの景観要素の類型に沿って基本的な事象を抽出して整理します。



（1）自然（水と緑）系の景観要素

1) 本市の象徴として市街地を縁取る斜面林の景観

台地部と低地部の境や河川によって形成される斜面地には樹林が残り、都市にうるおいを与えています。常磐線の車窓からは、矢切地域の斜面林と江戸川河川敷を一体に遠望することができ、本市の象徴的な景観として自然の豊かさを一層印象づける要素となっています。



矢切地域の斜面林

2) 豊かな水をたたえる江戸川の水辺景観

豊かな水をたたえ、大らかに流れる江戸川は、本市の景観の大きな要素のひとつです。川と河川敷の緑と雄大な空が一体となって伸びやかな景観を形成しています。



江戸川河川敷と雄大な空

3) 起伏あるなだらかな地形と谷津景観

本市は、江戸川沿いの平坦な地形と、海岸の浸食により形成された谷津と台地によって構成される起伏の多い地形と言え、幅が狭くて短い坂の中にも松戸の個性をたずさえているものが多くあります。



上本郷の階段

4) 市街地に残され、活かされている豊かな自然景観

21世紀の森と広場、松戸中央公園、戸定が丘歴史公園、八柱霊園、金ヶ作などの平地林（屋敷林）は、市街地に隣接する斜面林や谷津の自然を最大限に活かした整備や管理がされています。なかには市民になじみの深い公園として利用されるものもあり、ゆとりやうのおいのある良好な市街地景観を形成しています。



21世紀の森と広場

5) 市街地を流れる坂川の景観

松戸神社周辺の坂川の桜並木や散策路沿いでは、市民活動も活発であり、松戸市を代表する景観づくりの実践の場となっています。歴史的建造物等も見られ、豊かな自然環境の活用による良好な景観形成が期待されます。



坂川

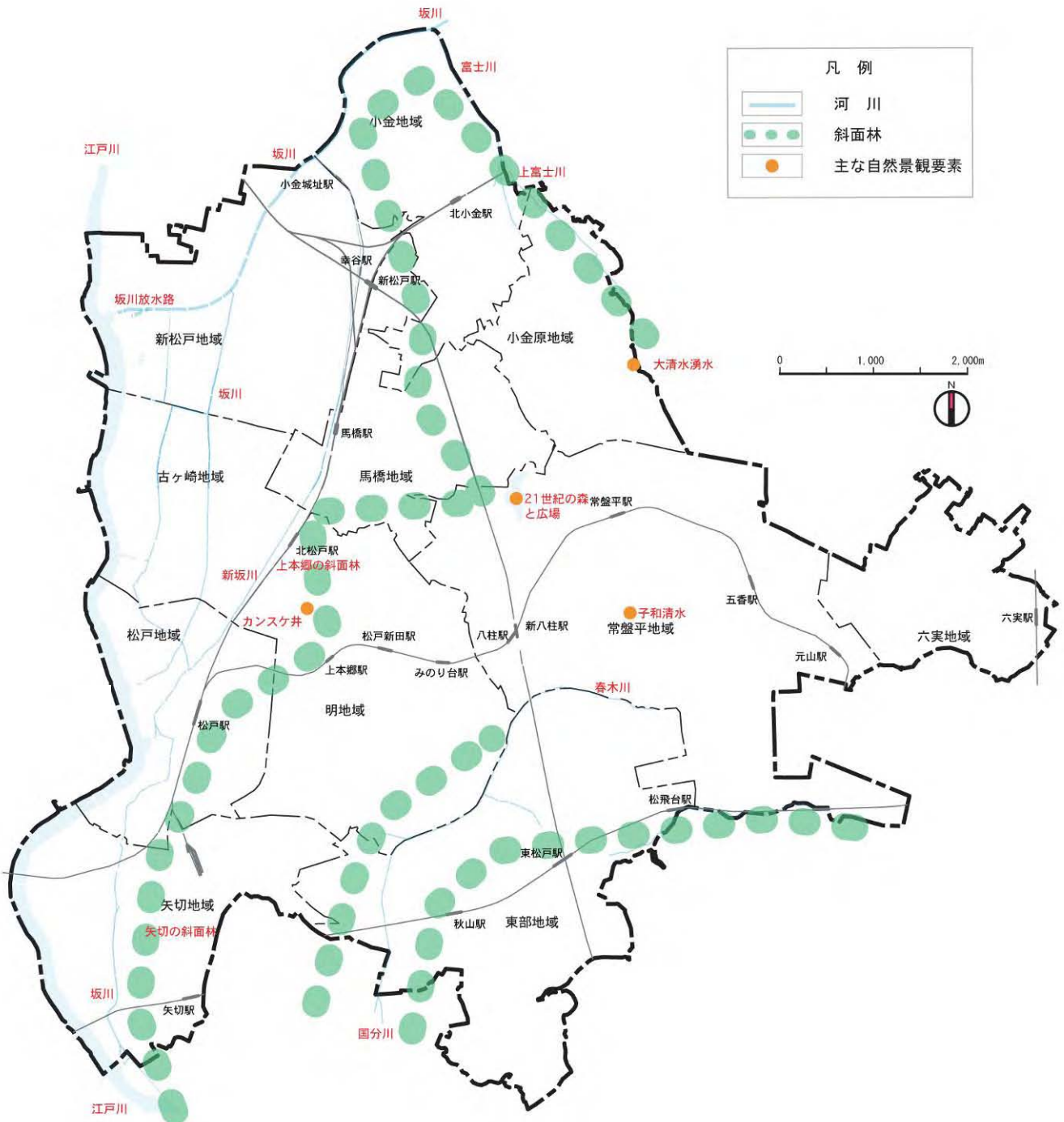
6) 水辺と斜面林を背景とした農地景観

低地部に広がる農地は、台地部を縁取る斜面林や水辺と一体に、ゆとりある景観を形成しています。



低地部の農地と斜面林

■自然系景観要素



(2) 歴史・文化系の景観要素

1) 交通の要衝だった都市の歴史的な景観

本市はかつて、旧水戸街道の宿場町として、また、江戸川の水運の河岸として栄えた土地柄です。旧水戸街道沿いの松戸宿や小金宿の周辺では、かつての面影が残るレンガ造の町家や社寺などが今も見られます。



伝統的形式をもつ建物

2) 水辺における歴史的な景観

「矢切の渡し」は、江戸時代初期の「農民渡船」が始まりとされ、400年近い歴史を持っており、日本の音風景100選にも選ばれ、松戸の観光名所となっています。今も木造の和舟で下矢切と葛飾区柴又の間を往復しています。



矢切の渡し

3) 歴史文化の残り香を漂わす文化財や社寺の景観

小説「野菊の墓」ゆかりの地である西蓮寺をはじめ、小金地域における本土寺、東漸寺など、本市の歴史文化を彩る社寺は広く分布しており、地域の歴史風土を代表する景観要素となっています。



東漸寺

4) 野馬の放牧場跡

江戸時代、常盤平・松飛台・五香六実の一带は、小金牧と呼ばれた幕府直轄の放牧場でした。当時につくられた野馬除土手がわずかに残っており、当時の名残をとどめています。



野馬除土手

5) 松戸を象徴する縄文時代の貝塚

先人たちが定住し暮らしを営むようになったその痕跡として、本市には幸田貝塚、貝の花貝塚など多くの貝塚があります。また、貝の花貝塚には、本貝塚より出土した土偶をモチーフとした記念碑が建てられています。



貝の花貝塚

6) 古代の歴史を垣間見ることのできる古墳群

本市には、古代の歴史を垣間見ることができる河原塚古墳群や小金古墳群などの古墳群があります。



河原塚4号古墳

